GREEN グリーンコープ シーシーグリーン 商品案内 2022.3 別紙 50号

2022年　3月7日週配達

申込書提出日	2/28(月)	3/1(火)	2(水)	3(木)	4(金)

※本チラシに記載の商品の価格や配達日などの詳細は、カタログGREENの表紙や2・3頁をご覧ください。

東日本大震災復興支援募金にご協力をお願いします

「東日本大震災から10年」復興応援特設ページもご覧ください！

3.11東日本大震災から11年。被災地ではまだまだ震災前とは程遠い状況です。グリーンコープではこれからも福島県、宮城県、岩手県の被災地支援活動の中で出会った方たちを応援し、東日本大震災復興応援商品を企画していきます。

3.11から**11年**たった今も**約4万人もの方々**が自宅に帰還されず避難生活を余儀なくされています。

避難者の推移（2021年11月30日 復興庁データ）

	2011年12月		
	県内	県外	計
岩手県	43,953	1,536	45,489
宮城県	122,557	8,603	131,160
福島県	95,200	59,464	154,664
計	261,710	69,603	331,313

	2021年11月		
	県内	県外	計
岩手県	795	795	1,590
宮城県	1,273	3,419	4,692
福島県	6,826	27,569	34,395
計	**8,894**	**31,783**	**40,677**

今年もご協力をよろしくお願いいたします。

グリーンコープ共同体
代表理事 熊野 千恵美さん

毎年、たくさんの復興支援募金を寄せていただき、ありがとうございます。震災後の支援活動を通じて、福島、宮城、岩手などでつながりがうまれた団体の活動に共感し、活用させていただいてきました。

一方、原発事故という問題にも直面してきた福島の方々。放射能汚染という深刻な課題には気の遠くなるような年月が必要だという理不尽に憤りを感じます。

そのような中にあっても、地域の高齢者の見守り、みんなで集える居場所は必要です。また、震災孤児となってしまった子どもたちへも心を寄せていけたらと思います。

一昨年、福島の地に設立したグリーンコープ生協ふくしまとも連帯し、グリーンコープらしい、心の通った支援を続けていきます。

東日本大震災から間もなく11年になります。

グリーンコープの組合員の皆様には震災後から支援物資を東北の地までお届けいただき有難うございます。そして、福島ぽかぽか（保養）プロジェクトにも安心・安全な食材を継続してお届けいただき、心から感謝申し上げます。

福島県では、まだ避難中の方も多く、避難区域解除後に避難先から福島に戻られた方や避難区域以外で福島に住んでいる方の中には、見えない放射線との闘いやそれぞれの震災後の生活状況の中で悩みを抱えている家族は多いと思います。

そのような状況の中で、グリーンコープによる継続した様々な支援に多くの方々が救われていると思います。

これからもご支援よろしくお願いいたします。

グリーンコープ生協ふくしま
理事長
武田 直美さん

福島県 福島市
福島ぽかぽかプロジェクト

福島に住む子どもたちとご家族のために、放射線量の低い地域で過ごしてもらう保養プログラムの活動支援を継続しています。

保養先でのびのびと遊ぶ子どもたち

2013年~2021年食材のお届け

米、野菜、びん牛乳、たまごなどを中心に76回、約7000点。
参加されたご家族延べ1800人（1回あたり25人前後）

東日本大震災復興支援募金

014 一口 **200円**　**015** 一口 **500円**

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号 014 の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

何口でも申し込めます

カンパのお申し込みは50号・51号でできます。（2月28日～3月11日）

これまでの募金状況

組合員とお取引先・その他から寄せられた募金総額（2011年～2021年12月20日現在）

	3億3887万7088円
支援に活用	2億9222万3653円
残高	4665万3435円

福島県 川内村　NPO法人昭和横丁

福島第一原発から半径20～30㎞内に位置する川内村で食料品の物販支援とコミュニティづくりの支援をされているNPO法人昭和横丁を応援していきます。

※共生地域創造財団では、キッチンカーの貸し出し、冷蔵庫設置やプレハブ店舗を支援するなど、「横丁市場」を運営する志田さんの活動をサポートしています。川内村に帰還された高齢者の方々の地域コミュニティが活性化するように、今後も見守りを続けていきます。

※グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連帯して、共生地域の創造を目指し、被災地の復興支援を行っている団体

NPO法人昭和横丁　代表理事　志田（あつし）篤さん

あの原発事故がなければ、村のどこの世帯も自宅には田畑があり、秋の収穫を終えると、1年分の米が蓄えられていた。春は山菜採り、秋はきのこを採り、少なからずの収入もあった。年金生活でも自然に恵まれて川内村で豊かに暮らしていけました。しかし、原発事故で6年間も仮設暮らし、村に戻っても自分たちで米や野菜を作ることもできず、働くこともできず心細い暮らしとなっています。

NPO法人昭和横丁の友誼団体「きらら会」の手芸品販売支援にご協力ください。

2017年まで仮設住宅暮らしとなっておられた絹子ばーちゃんから、針子刺し等の縫物を習い、みなさんで夢中になって作りはじめました。みんなで手仕事をする時は楽しく、原発事故の事も忘れてしまいます。

色・柄おまかせ

041
福島のきらら会が作った正絹着物リメイク小物入れ1個

価格など詳しくはカタログGREEN表紙・3ページをご覧ください。

福島県 葛尾村（かつらお）
一般社団法人葛力創造舎（かつりょくそうぞうしゃ）

村外の応援者のネットワークを創り、夢とロマンを胸に、地域を温める活動に尽力されている一般社団法人葛力創造舎を応援していきます。

葛尾村の下枝さん（左）と堺さん

葛尾村は福島第一原発から半径20～30㎞内に位置し、全村民が避難を強いられました。帰還困難区域を除いて2016年6月に避難指示は解除されましたが、事故前の人口1567人に対し現在の居住人口は425人。高齢者が47%を占めています。

2017年5月には村内の農家の協力を得て米作りを開始。その米を使って甘酒を商品化しました。2018年、2019年にはグリーンコープの組合員が多数、葛尾村を訪問し、田植えや稲刈りを村のみなさんと一緒に行いました。

また、甘酒や菓子、漬物の加工食品工場を建設し、葛尾村のみなさんが自分達で製造される予定です。グリーンコープでは、工場の建設費用の一部を支援しています。

038
甘酒
葛尾村ノマッシェ

価格など詳しくはカタログGREEN2ページをご覧ください。

残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界値未満）」を確認しています。

福島県 福島市　NPO花見山を守る会

花見山を守る会の拠点 ふれあいサロン「さくらの」では、福島県内の地震・津波・原発問題で避難を余儀なくされている方々への支援をしています。

グリーンコープは2015年花見山に桜の木を約200本植樹しました。

NPO花見山を守る会は、福島県の震災孤児の学業を応援する支援をされています。

震災当時、福島県で40数名の震災孤児の支援から始まり、現在は、14歳から22歳までの9名（男子4名、女子5名）の学業応援をしています。

3・4月の卒業・入学シーズンと12月のクリスマスには会から子どもたちにプレゼントと学業応援支援金を贈られています。

グリーンコープでもNPO花見山を守る会の取り組みに賛同し、子どもたちが学校を卒業するまで、その費用の一部を東日本大震災復興支援募金から拠出し、応援することにしています。

被災地の復興に向けて頑張っておられる方々を今後も引き続き応援していきます。ぜひご協力をお願いします！

本チラシに記載の商品の価格や配達日などの詳細は、カタログGREEN50号の表紙・2・3ページをご覧ください。

「東日本大震災から10年」復興応援特設ページもご覧ください！

東日本大震災復興支援募金

014 ―口 200円　015 ―口 500円

カンパのお申し込みは50号・51号でできます（2月28日～3月11日）

何口でも申し込めます

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号 014 の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

宮城県 石巻市　折浜・蛤浜 亀山さんご夫妻

宮城県石巻市にある折浜・蛤浜は、小さな漁村です。3.11の大津波のとき亀山さんたちは集落の上の山に避難されましたが、小さな漁村なので救援の手がすぐには届きませんでした。寒い夜を山の中で避難しているときは、ゆりかえしの余震に脅え、そして集落の惨状に絶望し、ひたすら耐えていたといわれます。

亀山さんご夫妻の心の支えになったのは、グリーンコープの支援物資に入れられていた一通の絵手紙だったそうです。

カキ漁師　亀山さん

まだ小さな孫が「おじいちゃんのようなカキ漁師になる」と言ったとき、胸が熱くなりました。大津波で船は流され、集落は壊滅し、目を覆う惨状に途方に暮れた日々を思い返すこともありますが、孫や子どもと仕事したり談笑していると「今は幸せだ」と思うこともあります。

宮城県 東松島市
(株)髙橋徳治商店

代表取締役 髙橋 英雄さん

大震災の大津波によって、心の病をかかえた若者たちの就労支援の場として、冷凍野菜工場で就労していただくことで心の痛みを緩和して、しっかりと自信を持ち精神的にも、できれば経済的にも自立できるような仕事を提供しています。その若者達が私共の職場で気軽に社員と一緒に働くことで自信をつけてほしいし、そういった若者が元気になると工場全体が元気になります。

恐らく何十回どころでなく振り返りや話し合いが継続的に必要でしょう。

ある意味、このような企業活動は被災企業だから、被災した当社のスタッフだからこそできる、或いはしていきたい活動だと考えております。

030

おとうふ揚げ
3種セット（冷凍）

価格など詳しくはカタログGREEN２ページをご覧ください。

残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界値未満）」を確認しています。

宮城県 女川（おながわ）町
一般社団法人コミュニティスペース うみねこ

代表　八木 純子さん

ここ2年は世界的な新型コロナウイルスの影響で私たちの活動も思うようにできず大変な日々が続いております。そんな中でもみなさんの様々な励ましにより活動しております。

間もなく震災から11年になろうとしております。震災直後は「必要な時に必要なことを」と思い、避難所での子守り活動から様々に形を変えています。

2021年の後半からはよりコミュニティづくりに力をいれて活動しております。そんな中でこんなことがありました。地域で行われたワークショップに参加し、その3日後に89歳の方がこの世を去ってしまいました。ご家族には「おばあちゃん『最高に楽しかった』と帰ってきました」と言っていただきました。私たちは「震災は辛い、苦しい。けれど、あなたたちがいたから頑張れた。会えてよかった」と言っていただけるような存在を目指し活動してきました。今後も「笑いと元気を作る」活動を続けていきたいと思っています。美味しいものを作り、販売し、雇用を作ります。また、地域や多くの方にそれを還元して復興を目指します。

色・柄おまかせ

046

ゆめ玉ストラップ1個

価格など詳しくはカタログGREEN３ページをご覧ください。

宮城県 亘理（わたり）町
株式会社“感謝”をつなぐ WATALIS（ワタリス）

代表　引地 恵さん

「WATALIS」は震災後に発足。タンスに眠っていた古い着物をほどき、再利用した布巾着（FUGURO）や小物を手作りしています。そしてその活動は被災地の亘理の女性たちが自立していくための生きがいや居場所作り「中町カフェー（コミュニティーカフェ）」として育まれていきました。引地代表は「高齢者と交流を深め、地域の文化や記憶を若い世代に引き継ぐのが私たちの役割。従来のものづくりに加え、新たに集う場を提供し、震災で散り散りになった住民のつながりを取り戻したい」と話しています。

現在、WATALISは、女性たちの手仕事の活動とは別に、亘理町の地域住民と「わたりグリーンベルトプロジェクト（東日本大震災で大きな被害を受けた海岸林再生と地域の復興）」と出会い、その出会いをきっかけに遊休農地を活用した大豆の栽培や養蜂に地域の方と一緒に汗をながしています。

どんな柄が入っているかはお楽しみ！

055 感謝の福袋

価格など詳しくはカタログGREEN３ページをご覧ください。

岩手県 陸前高田市
あすなろホーム
（就労継続支援B型事業・就労移行支援事業）

施設長　西條 一恵さん

「グリーンコープの藻塩とゆず塩は今度いつ作るの？」と、作業するホームの利用者がいつも聞いてこられます。グリーンコープから沢山の注文をいただきました。一つのものを作り続けることが、ホームで作業されるみんなにはとても嬉しく、注文がくるのをまだかまだかと待っておられます。

2013年からのお付き合い、本当に感謝しています！

036

藻塩

035

北限のゆず塩

価格など詳しくはカタログGREEN２ページをご覧ください。

残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界値未満）」を確認しています。

岩手県 大船渡市
(株)バンザイ・ファクトリー

地域の方々と一緒に山から採取した椿の苗を被災地に植えています。

震災の大津波で岩手県沿岸部は甚大な被害を受けました。しかし、その中で、気仙地区に古くから自生しているヤブ椿は、深く根を張り倒れにくいので、沢山生き残りました。

2014年、㈱バンザイ・ファクトリーの髙橋代表は、大船渡市の方々の雇用と被災地を元気づけることを目的に、ヤブ椿の葉で椿茶の商品開発を行いました。

037

椿茶 ティーバッグ

価格など詳しくはカタログGREEN２ページをご覧ください。

残留放射能検査を行い、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界値未満）」を確認しています。湯で抽出したお茶の残留放射能検査では、ヨウ素、セシウム134、セシウム137はすべて「検出せず（検出限界値未満）」を確認しています。

宮城県 石巻市 雄勝（おがつ）町
エンドーすずり館

白石の手彫りで、１日に２個を職人が一人で作っています。

代表　遠藤 弘行さん

震災で甚大な被害を受けた雄勝町。遠藤弘行さんは、大津波で自宅やすずり工房、多数のすずりやノミなどの工具をすべて失いました。雄勝を離れることも考えましたが、泥の中からお父様の作品が奇跡的に出てきたことで、もう一度すずりを作ることを決心されました。その後引退したすずり職人から道具を託され、流された材料の石も見つかり、プレハブを自宅跡地に建て「エンドーすずり館」として2012年に再スタートされました。

039

雄勝硯（すずり）

価格など詳しくはカタログGREEN３ページをご覧ください。